

# ふ え ね 笛の音 第 4 号

久喜市立郷土資料館だより

中妻の獅子舞・棒術



西大輪の獅子舞



除堀の獅子舞



八甫の獅子舞

上記の写真は、市指定無形民俗文化財である 4 つの地区の獅子舞（ササラ）です。ほかに、古久喜・吉羽・小林地区でも行われています。

獅子舞というと、正月に出てくる 2 人立ちの 1 頭獅子のイメージがあるかと思いますが、関東地方の獅子舞は、1 人立ちの 3 頭獅子が多く、市内の獅子舞も同様の形態です。獅子舞は五穀豊穰、病魔退散といった祈願を込めて、夏や秋によく行われています。豊年祝いの秋の獅子舞と異なり、夏の獅子舞は祓の意味合いが濃いとわれています。現在市内で行われる獅子舞は、除堀・小林が春、八甫・西大輪・古久喜・吉羽が夏、中妻が夏と秋に行われています。

（文化財保護課学芸員 河上 愛）

## 目

## 次

- 江戸時代の神楽（前編） . . . . . 2
- 久喜ゆかりの人物 本多静六 . . . . . 2
- 名品? 珍品? 収蔵資料紹介④ 銚子と盃 . . . 3
- ご利用ください 民俗資料展示室 . . . 3
- イベント情報 . . . . . 4

## 神楽の世界 ④ 江戸時代の神楽（前編）

鷲宮神社<sup>かぐら</sup>の神楽に関する江戸時代の最も古い記録は、元禄9年（1696）2月に、境内末社の軍・妃川宮を再興した際に作成された棟札<sup>むなふだ</sup>になります。棟札とは建物の創建や修理に際して、上棟<sup>じょうとう</sup>の年月日、工事関係者の氏名などを木札<sup>きふだ</sup>などに記して棟木<sup>むなぎ</sup>に打ち付けたものです。

この棟札の裏面には、軍・妃川宮再興のために寄進した当所の鷲宮町をはじめ、騎西領<sup>きさい</sup>・久喜領<sup>くいき</sup>・百間領<sup>ももんま</sup>・岩付領<sup>いわつき</sup>・羽生領<sup>はにゅう</sup>などの37か町村や遷宮祭礼の役人、筆者、大工、神楽役人の名前が記されています。「神楽役人」は、木村喜太夫、内藤惣太夫、矢嶋小太夫、鈴木助太夫、山口権太夫、田中甚太夫の6名で、この頃には神楽を専任する神楽役という社家<sup>しゃけ</sup>が存在していたことが確認できます。

また、宝永5年（1708）に作成された別当大乘院<sup>べつとうだいじょういん</sup>の由緒書<sup>ゆいしょ</sup>に所収の境内絵図には、拝殿・本社<sup>がき</sup>の真向かいに「神楽殿」が



描かれているのが読み取れます。

このような神楽役と神楽殿の存在により、元禄・宝永期頃までには恒常的に神楽を行う体制が整っていたと考えられています。なお、神楽殿は、残されている棟札から、享保11年（1726）と、その95年後の文政4年（1821）とに再建されたことが分かっています（次号へ続く）。

（郷土資料館学芸員 栗原 史郎）



宝永5年の鷲宮神社境内絵図



元禄9年の棟札



### 久喜ゆかりの人物

ほんだ せいりく  
本多 静六

慶応2年(1866)～昭和27年(1952)



本多静六は、慶応2年（1866）に現在の久喜市<sup>しゅうぶちやうかわほらい</sup>菖蒲町河原井に生まれました。幼くして父を亡くしましたが、苦学の末に東京山林学校（後の東京帝国大学農科大学、現在の東京大学農学部）に進学し、ドイツ留学も果たしました。その後、日本最初の林学博士<sup>はくし</sup>として東京帝国大学農科大学の教授となり、各地に演習林<sup>えんしゅうりん</sup>を造るなど、多くの後進の指導にあたりました。また、研究生生活のかたわら、多方面の実業分野でも活躍します。ここでは、本市とも関係のある2つの業績を紹介します。

まず、実業分野としての最初の仕事である防雪林<sup>ぼうせつりん</sup>の設置です。明治24年（1891）、東京と青森を結ぶ鉄道が開通しましたが、雪による汽車の立ち往生などの雪害<sup>せつがい</sup>に悩まされていました。そこで博士は、吹雪<sup>ふぶき</sup>や雪崩<sup>なだれ</sup>から汽車を守るための防雪林の設置を提案します。そして明治26年（1893）に博士の設計、監督

による、日本で初めての鉄道防雪林が青森県野辺地<sup>のへじ</sup>駅構内を中心にした鉄道沿線に誕生しました。平成5年（1993）には、防雪林の100周年記念式典に、博士の出身地代表として当時の菖蒲町長が招かれたことが縁となって菖蒲町と野辺地町の交流が始まり、合併後の久喜市でも、平成25年（2013）に野辺地町と友好都市の締結を行うなど、現在も交流を活発化させています。

次に、博士の専門分野としての仕事である森づくりです。博士は明治神宮の森づくりに携わり、人の手を加えずに自然の力で木が世代交代していく「天然更新<sup>てんねんこうしん</sup>」の考え方を取り入れた百年の森づくりという壮大な計画を実行しました。明治神宮の森の造営には全国から献上された約9万5千本の木が使われましたが、その中に博士の生まれ故郷の菖蒲町河原井から運ばれたクスノキもありました。このクスノキは今でも南参道の一の鳥居のそばに大きくそびえ立っています。（文化財保護課学芸員 星野 諒）

名品？珍品？

## 収蔵資料紹介 ④

### 銚子と盃

—家康から拝領した宝物—

今年は、徳川家康（1542～1616）の没後400年の節目を迎えます。家康は、慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いで勝利し、江戸幕府260年の礎を築きました。郷土資料館には、家康にまつわる逸品として、鷲宮神社所蔵の「銚子」と「盃」を収蔵しています。

銚子は漆塗りで、本体は鉄製、蓋は木製、本体と蓋には徳川の家紋である三葉葵が施されています。盃は12～13世紀に中国で焼かれた白磁の碗で、内面に月と花が描かれています。

この銚子と盃について、江戸時代に編さんされた地誌『新編武蔵風土記稿』では、慶長5年（1600）に家康が上杉景勝征伐のため会津に赴く途中、鷲宮神社の神主であった大内泰秀が忠勤に励み、家康から直接拝領したものと記されています。

また、鷲宮神社の社伝では、家康が会津に赴く途中で利根川の船橋を渡ろうとしたところ、船を繋いでいた綱が切れ、泰秀が川に飛び込んでこの綱を引き留め、

家康の危機を救ったと記されています。この時、泰秀は家康から銚子と盃のほかに三条宗近の太刀、馬、時服（諸臣が將軍などから賜る服）を拝領したとありますが、残念ながら現在は伝えられていません。

現存する家康拝領の銚子と盃は、泰秀の家康に対する忠義を示す品といえるのではないのでしょうか。

（郷土資料館学芸員 巻島 千明）



銚子と盃

## ご利用ください 民俗資料展示室



青葉小学校には、市内の民俗資料を展示・公開する民俗資料展示室があります。民俗資料展示室は、郷土資料館の民俗分野の展示を補う分館的な施設として位置づけていて、平成27年度の公開の際には、郷土資料館第6回特別展「懐かしい道具たち—祭り・暮らし・米作りの道具—」の第2会場として公開いたしました。

民俗資料展示室では、主に暮らしの道具と米作りの道具を紹介しています。内訳は、暮らしの道具が160点、米づくりの道具が28点で、計188点の民俗資料を公開しています。このほか、およそ2,000点の民俗資料を保管しています。

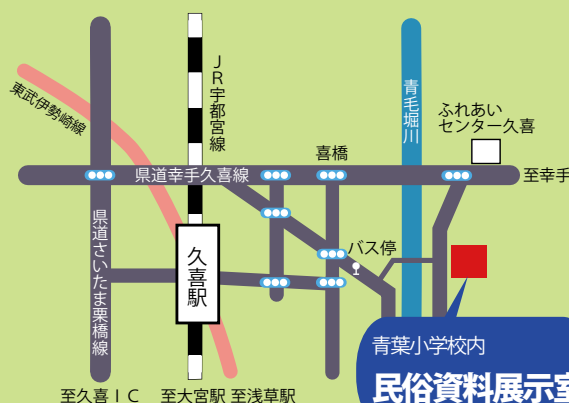
民俗資料展示室の一般公開は、小学校の余裕教室を利用した展示室ということから、気候が穏やかな秋頃に行っています。

なお、授業の一環として学校で利用される場合には、随時受け付けています。事前の申し込みで日程の調整をお願いいたします。

**所在地** 久喜市青葉 1-3-1（青葉小学校内）

**電話** 0480（57）1200（郷土資料館）

**アクセス** 久喜駅東口より朝日バス「高田」下車、徒歩約10分



## 講座 子ども歴史広場 参加者募集

①和風をつくってみよう	7月27日(水)	場 所	郷土資料館 2階視聴覚ホール
②七夕飾りをつくってみよう	8月3日(水)	対 象	幼児～小学生(未就学児は保護者同伴)
③勾玉をつくってみよう	8月24日(水)	定 員	各30人(当日13時開場/会場先着順)
時 間	いずれも13時30分～15時	費 用	無料

## 第7回特別展 社寺参詣と巡礼の旅—久喜の信仰—

平成28年10月22日(土)～12月25日(日)

近世から近代にかけて行われた社寺参詣の旅を手がかりにして、当時の信仰について紹介します。  
会 場 郷土資料館展示室2

開館時間 午前10時～午後6時  
休 館 日 月曜日、祝日の翌日、館内整理日

## 民俗資料展示室 収蔵品展—むかしむかしの道具たち—

懐かしい暮らしの道具や米作りの道具などを紹介します。

会 場 民俗資料展示室(久喜市青葉1-3-1、青葉小学校内)

公開時間 午前10時～午後4時30分



公開日 平成28年10月1日～12月25日の土曜日と日曜日

### 編集後記

『笛の音』第4号をお届けします。ご感想をぜひ郷土資料館までお寄せください。

久喜市立郷土資料館だより

## 笛の音

第4号

発行 平成28年(2016)7月22日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷲宮5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日(祝日除く)、年末年始、祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります



### 電車で

- 東武伊勢崎線 鷲宮駅下車 徒歩15分
- JR宇都宮線 東鷲宮駅下車「加須川口循環」行きバス「図書館入口」下車 徒歩2分

### 自動車で

- 東北自動車道 加須インターから15分  
久喜インターから15分